

コミュニケーション演習2

【単位数:1単位, 授業14コマ】

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-c, I-2-c, I-5-c, I-6-c, II-1-c, II-2-c, II-3-c)

- ① 本学のコンピテンスである「プロフェッショナリズム」、「コミュニケーション」の基礎を学び、チームとして良好な関係を構築できる。
- ② 初対面の患者と良好なコミュニケーションをとるためのスキルを身に着け、自身のコミュニケーションの傾向や課題を明確にする。
- ③ 安全な医療を提供するために必要なコミュニケーションについて考察する。

(2) 学修目標

- ① 模擬患者から、話を聞く演習を通じて、傾聴、会話のポイント、相手から情報を引き出す方法等を実践できる。
- ② 医師として患者・家族とコミュニケーションを図るために必要な要素を説明できる。
- ③ コミュニケーションに必要な基本的な技法について実践できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	60%	事前課題・事後課題を評価する。課題の意図にあった内容であること。演習体験に基づいた自己の学びや課題を明確に書き表していること。
態度	○	30%	身だしなみ、面接技法について、模擬患者による他者評価を実施する。
その他	○	10%	グループ学習の成果物(インタビューガイド)の充実度を評価する。

出席: 演習を修得するためには、欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

面談の上、課題・レポートを課す。

演習を欠席した場合は、補習又は追加レポートを課す。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

模擬患者とグループメンバーからのコメントなどを総合してフィードバックを行う(紙面でフィードバック)。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
チームが機能するとはどういうことか	エイミー・C・エドモンド(野津智子訳)	英治出版	チームコミュニケーションについて理解しやすい書籍である。
診療場面のコミュニケーション	ジョン・ヘリテッジ, ダグラス・メイナード(川島理恵他訳)	勁草書房	会話分析という研究分野からみた医療面接について述べられており、問い合わせとその答えについて具体的な例が多いため、「目的をもった会話」の重要性を考えるきっかけになる。

6 準備学習（予習・復習）

日常のコミュニケーションについて、演習前後に振り返る機会を持つこと（1日あたり約0.5時間）。

1学年次早期体験実習1aで学習したコミュニケーションについて振り返ること（1日あたり1時間）。

7 授業計画

（1） 講義の方法

演習を中心に双方向の講義を行う。

（2） 講義の内容

コミュニケーションの基本と医療人として求められるコミュニケーションの特徴について学習する。

模擬患者に対する「ライフストーリー」聴取、及び症状のある患者への問診を体験する。